

透明性の高い 入札制度に！

坂本 早苗 議員

坂本 県が3千万円に拡大したのであれば、本市の規模からするとともに金額を下げてもいいのでは。

総務企画部長 多くの自治体で談合等の不正行為が発覚している。一般競争入札は発注者の裁量が少なく透明性が高い、第三者の監視が容易、競争性が高まることから国が促進している。条件をつけているのは地元優先と業者の能力を付している。予定価格の4千万円は熊本県が実施している金額にあわせたが、県は今年度から3千万円に拡大している。



消火栓

坂本 消防組織のない地区もあり点検確認が不十分。交通量の多い道路の地下式消火栓は日常の点検も難しい。早急な改善をお願いしたい。

坂本 消火栓の管理・点検はどこが実施しているのか。

総務企画部長 消火栓403基の管理責任者は市となっている。日常の点検は消防団、自主防災組織、自治会等に協力をお願いしている。また消防署も市内全域を点検している。

市長 一般競争入札は指名競争入札に比べ落札率が低く、市の財政上はいいが地場産業育成、財政の有効利用等と合わせて研究したい。

消火栓の管理・点検は大丈夫？

雇用対策について

青木 照美 議員



青木 農業関係予算の推移について。
産業振興部長 平成11年度は2町合計で6億7千万円ほど。平成21年度は3億1千万円ほど。この10年間で半減している。減少の要因は、基盤

農業について

青木 合志市型の特色ある教育は。教育長 子ども憲章を制定し「教育は人づくり」の観点より指導している。特別支援学級の充実や英語教育の充実など、県下に類を見ない教育を実践している。

青木 経済対策交付金の使途は。
教育部長 義務教育施設整備と特色ある学校づくりに使う。具体的には全小中学校の教室に扇風機を4台設置。防犯カメラの設置、西合志中学校運動場整備など。又、各小中学校へ生徒一人当たり3,000円を目途に自由に使える予算を交付する。普段、必要な教材や備品を購入していただく。その際には景気対策のため、地元の業者さんより購入していただくようにする。



整備事業、堆肥施設などのハード事業が完了したため。
青木 合志型の施策は。
産業振興部長 農地の集積、耕畜連携、集落営農、農業生産法人の育成など、重要な課題を抱えている。
青木 農業政策を多面的に考えたら。
市長 農地は、洪水調整や災害の抑止、温暖化防止など計り知れない側面を持っている。今後は農業を農政だけの視点にとどまらず、各課と連携し、多角的な施策を展開していきたい。

市民サービス向上に 繋げるために！

来海 恵子 議員



来海 市長公用車の年間の走行距離・使用目的・年間経費は。

総務企画部長 平成20年度の走行距離は9,455km、使用延べ日数は199日、年間経費は約877万円（人件費・燃料費・維持管理費）です。

来海 市長車を廃止して、タクシーを利用できませんか。どうしても黒塗りの公用車を使わなければならぬときは、その出張先の会議や、打ち合わせの関係部署の職員が運転すれば、忙しくて中々話す機会がない市長と、政策課題や業務内容について話す貴重な時間を持つてるのはないでしょうか。運転を業務とする職員は配置転換し、人的余裕のない市組織の強化を図れないでしょうか。

合志市は人口1人当たりの職員数が県下市町村で一番少なく、市職員は一生懸命頑張っています。経費削減を進めるならば、積極的に慣例を覆す努力が必要ではないでしょうか。

総務企画部長 市長車については、今年度、組織・機構の見直しを行っていくので総合的に検討したい。

来海 参考までに、佐賀市では前佐

賀市長時代に市長の公用車を廃止し、1千万円近くかかっていた年間経費が年間数10万円で済むようになったそうです。

忘れてない子どもの安全面を

来海 南ヶ丘小学校前のJA跡地が児童保育等の施設になりますが、子どもが道路を横断して施設に行くのに歩道がなく安全面が心配ですが。

健康福祉部長 南ヶ丘小学校の道向かいにあり、特に危険な箇所とは認識していませんでした。非常に交通量も多く安全面の配慮も必要なので、開設当初は低学年の通行については学童クラブの指導員に交通指導も含めて指導をお願いし、道路について



歩道がなく危険な南ヶ丘小学校前

学校給食と特産品開発

島田 敏春 議員



島田 米飯給食で年間約4,800kg（8百俵）使用されている。面積にして10haとなるが、安心・安全で美味しい米を提供するために、堆肥センター等の良質な堆肥を使った学校給食用として指定できないか。

産業振興部長 減農薬や良質な堆肥等を使用した契約栽培についてはコストやリスク、また販売価格などの課題もあり、JAや関係者と協議したい。

島田 豊かな台地と水資源に恵まれ、農業生産額は県内でも上位にあるが、農畜産物の中で合志市の特産品は「これ」と言ったものを作り出す必要があると思うが。特産品開発に向けての考えをお聞きたい。

産業振興部長 合志市独自で農畜産物等に付加価値を付け、さらに地域イメージを結びつけて売り出すことが大事である。4月に地域ブランド推進室を設置し、地域ブランド推進協議会を立ち上げた。今後は協議会を通して合志市独自の地域ブランド戦略を構築したい。

企業誘致・名刺活用について

島田 合志市の工業製品出荷額は県内3位である。これは多くの関係者が努力してきた結果だと思うが、若者はもとより中高年の雇用を必要とする企業等の誘致について、現状と今後の取り組み、また、合志市のPRの方策として名刺の有効活用が必要と考えるが、あわせて伺いたい。

産業振興部長 県内でも立地条件がよく、順調に企業誘致や増設が進んでいる状況です。今後、大規模な工業用地として、熊本県農業研究センターと周辺の10haを計画している。また小規模な工場適地調査なども実施したい。合志市のPRについては、交通アクセスや水資源等の特色を盛り込んだ内容ある名刺台紙を工夫したい。



合志市の特産品